

1.1.5 国際交流（神学部・神学研究科 共通）

【評価項目 7-0-1】 国際交流（国内外における教育研究交流）

- （必須要素）国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性（学部・研究科）
- （必須要素）国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性（学部・研究科）
- （選択要素）国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（研究科）
- （選択要素）外国人教員の受け入れ体制の整備状況、運用の適切性（学部・研究科）
- （選択要素）教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性（学部・研究科）
- （選択要素）国際的な教育研究交流、学術交流のために必要なコミュニケーション手段修得のための配慮の適切性（研究科）

<2003年度に設定した目標>

1. 学術文化交流協定を結ぶベルン大学との学生レベルでの交流について具体的に検討を行う。
2. アジアの諸大学や神学系教育機関との国際交流推進につき、新たな方針を策定し、展開を目指す。

（現状の説明）

学部（研究科）間学術文化交流協定をベルン大学福音主義神学部（スイス）と1995年12月14日締結し、その後3年毎に更新を継続している。相互協力の推進分野は、a) 共同研究プロジェクトおよび講義・講演等を目的とした教員交換、b) 学位取得をめざす大学院生および学部生の相互の学部への受け入れ、c) 学術公刊物および学術情報の交換、d) 共同研究プロジェクトの企画の四分野である。2002年度および2004年度には、ベルン大学から客員教員を招聘、2005年度には学術講演会のために招待を予定するなど教員レベルでの協力関係は着実に成果を上げている。

ベルン大学の他に、キェルケゴール研究交流の南デンマーク大学（デンマーク）やヴィクトリア大学（カナダ）、アムステルダムフライ大学（オランダ）との交流もあり、2002年度には南デンマーク大学からも客員教員を招聘している。

学生の交換においてベルン大学との実績はないが、大学間協定を締結している韓国の延世大学に2004年度は1名の交換留学（派遣）があった。

なお、神学部・神学研究科は、東北アジア神学校連盟（NEAATS）に加盟しており、これまで幹事校も務めている。これは、世界教会協議会の神学教育部門と密接な連携を保っているもので、NEAATS主催の国際会議・シンポジウムには代表を派遣している。

また、神学部・研究科の外国人教員として、2001年10月から宣教師（同時に専任教員【新約神学専攻】）が採用され、教育・研究活動、宗教活動に従事している。

（点検・評価の結果）

研究・教育の国際化を図るために、教員の国際交流に関してはベルン大学を中心としてドイツ語圏が中心となっている。しかしながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア、デンマーク、オランダ、韓国、台湾、中国など幅広く交流を進めていくことも必要であろう。

一方、学生の交換に関して学部間協定を結ぶベルン大学と積極的に検討を行うことが必要である。また、大学間協定のある諸大学、特に大学の留学生受け入れのほとんどがアジ

アであることから、神学部としてもアジアの諸大学へ派遣をさらに進めることが重要な課題となってくるであろう。

(改善の具体的方策)

基本方針として従来から交流のある南メソジスト大学（米国）、エモリー大学（米国）、ヴィクトリア大学、延世大学（韓国）、メソジスト神学大学（韓国）の諸大学神学部との学部間研究交流のプログラム促進の方途について予算措置を含め検討を進める。

他に教員がかつて留学したドイツ、オランダ、デンマーク、アメリカ等の大学神学部との交流も検討の対象とする。

学生の教育研究交流プログラムを開発していくことも必要である。アジアからの留学生、ことに韓国、中国、台湾の神学部・神学研究科や高度専門職業人養成機関との交流について具体的に検討を始める。